

ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz)

【選定理由】

日本固有種で、国内でも本州、四国、九州、隠岐島後の限られた地域にしか生息しない。各地域個体群は分断化・孤立化しており、県内の小個体群同士および隣接県の個体群が連続的な分布をしている証拠はなく、個体群の孤立化と生活環境の悪化により個体数が減少していると考えられる。

【形態】

体重 12.7~23.0g、頭胴長 59~84mm、尾長 33~54mm、後足長 15~17mm、耳介長 6~9mm、頭骨最大長 23.5~24.6mm。四肢が短く体型はハムスターに似ているがリスに似た扁平な尾をもつ。淡褐色をした背面の正中には黒い線があり、腹面の色はやや淡い。夏毛では背面の毛色は灰色から褐色まで種々の中間型を介在させて変異に富む。耳介は短くほとんど体毛に埋まる。盲腸をもたない。頭骨では吻は長いものの切歯孔は小さい。乳頭式は 2+1+1=8 または 2+0+1=6。歯式は I1/1, C0/0, P1/1, M3/3=20 (子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市、岡崎市、設楽町、豊根村(宮尾ほか, 1984; 子安・織田, 2009)。

【国内の分布】

本州、四国、九州、隠岐島後(Iwasa, 2015)。

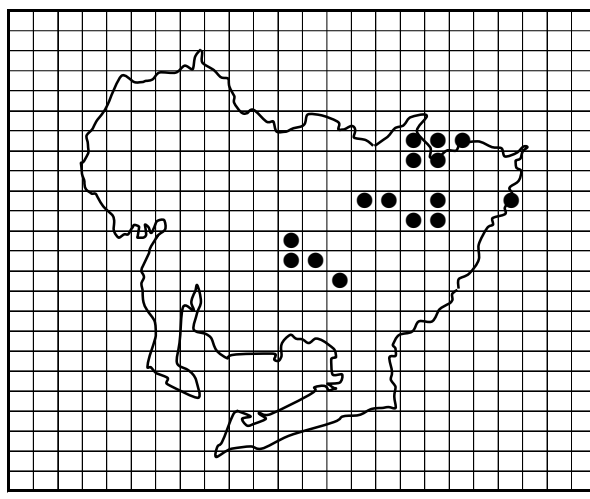
【世界の分布】

日本固有種(Iwasa, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

亜高山帯以下の山地天然林にすみ、樹上性が強く、夜行性で、樹洞や樹上に苔や樹皮などで巣をつくる。冬期には完全な冬眠をおこなう。冬眠場所は樹洞の巣や樹皮の割れ目、落葉や土中などである。果実、種子、昆虫などを食べる。春から秋にかけて繁殖し、2~7仔を産む。妊娠期間は3週間。小鳥のための巣箱に入ることが知られているが、この中で冬眠はしない。ゴルフ場内の残地林の巣箱を利用した例も知られている(子安・織田, 2009 など)。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

中島(2001)によるヤマネの全国分布状況によると、愛知県のヤマネは長野県最南端の小個体群とわずかにつながるのみで、南アルプスの個体群から孤立している可能性がある。既知の分布情報から、県内の各小個体群は明らかに孤立化しており、道路やダム造成などによる小個体群の分断と森林伐採は生息環境の悪化と分布面積の減少をもたらす、個体数を減少させる要因と考えられる。

【保全上の留意点】

ヤマネの分布域では生息個体群を分断する道路・ダム湖の造成や森林の無秩序な伐採・開発を避けるべきで、やむを得ない場合にも個体群の分断化の影響を減らす回廊の設置(湊, 2000)や、失われる分布面積に匹敵する代替環境造成として潜在植生の復元などをはかる必要がある。

【特記事項】

毛色には地理的変異があり、山梨産は灰色、和歌山産は茶色、長崎産は濃い茶色になっている(湊, 2000)。また、西日本産(福井県、和歌山県、高知県)と中部産(山梨県、長野県)ではヤマネの塩基配列が大きく異なり、200万年程度の分岐年代に相当するという(Suzuki *et al.*, 1997)。日本哺乳類学会では危急種(村上・金子, 1997)、文化財保護法による天然記念物。化石は、本州の中期・後期更新世と完新世から出土している(Iwasa, 2015)。愛知県内で、フクロウのペレットからヤマネの下顎骨が発見されている(真野・杉山, 2008)。

【引用文献】

- 子安和弘・織田銃一, 2009. ヤマネ, レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.82. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
湊 秋作, 2000. ヤマネって知ってる? ヤマネおもしろ観察記, 126pp. 築地書館, 東京.
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
Iwasa, M.A. 2015. *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.148-149. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
真野 徹・杉山時雄, 2008. フクロウの巣箱から確認された動物の骨格. 西三河野鳥研究年報, 11: 1-6.
村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.
中島福男, 2001. 日本のヤマネ, 169pp. 信濃毎日新聞社, 長野.
Suzuki, H., S. Minato, S. Sakurai, K. Tsuchiya, I.M. Fokin, 1997. Zoological Science, 14:167-173.

(子安和弘・織田銃一)